

国語科

I 国語科の学習目標

- （1）言語能力を高めることによって、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、豊かな人間性を身につける。
- （2）文章表現の読解を通して、他者の考え方を理解するとともに、自己の考えを確立し、生きる上での判断力を身につける。
- （3）優れた国語表現を学ぶとともに、自分の目ではっきりと対象を捉え、それを国語で適切に表現する力を身につける。
- （4）現代日本語の正しい知識を学び、適切に運用する技能を身につける。
- （5）古典に描かれた世界を鑑賞することによって、日本の伝統文化に興味・関心を持ち、古の人の価値観・心情を理解する。

II 国語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」を含めた表現力の育成 ・自己の考えに基づく判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実 ・古文・漢文領域の知識の習得 ・楷書の基本 学びに向かう力・人間性 ・現代の日本文化、古典文化に興味を持つ。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の基礎（漢検4～3級レベル） ・口語文法の基礎(単語と品詞、活用のある自立語) ・資料の活用 口語文法 古文の知識 竹取物語 漢文の知識 中国の名句・名言、故事成語
	2年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」を含めた表現力の育成 ・他者の考えを理解し、問題を解決する判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実。 ・古文・漢文領域の知識の習得。 ・行書の基本 学びに向かう力・人間性 ・現代の日本文化、古典文化を理解する。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の充実（漢検3～準2級レベル） ・口語文法の基礎（助詞・助動詞） ・文語文法の基礎（単語と品詞、活用のある自立語） ・ポスターセッション 口語文法 文語文法 枕草子、平家物語、徒然草 百人一首① 漢詩文の世界 漢詩
	3年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」すべてを含めた表現力の育成 ・他者と話し合い、問題を解決する判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実。 ・古文・漢文領域の知識の習得。 ・生活を豊かにする文字 学びに向かう力・人間性 ・今昔の日本人の価値観・美意識を理解する。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の充実（漢検準2～2級レベル） ・文語文法の基礎（助動詞、助詞、副詞） ・訓点、再読文字 ・プレゼンテーション 文語文法 和歌、奥の細道、百人一首②→百人一首大会 漢文の世界 論語、漢楚の興亡
高校段階	4年	〈国語総合〉 現代文領域 ・読解の充実、応用 国語としての教養の充実 古文領域 ・古文読解の充実 文語文法の完成（2年3年の復習、敬語法） 漢文領域 ・漢文訓読の充実	・識字能力の充実（漢検2級レベル） ・詩歌の歴史（万葉～近代短歌・近代俳句・近代詩まで） （日本文化概論の前段階として） ・文語文法の充実 ・語彙力の充実（後期） ・句法の学習 ・資料の活用 百人一首、基本漢文 日本文学史、古文単語集、現代文入試問題集基礎編
	5年	〈現代文〉 ・読解の充実、応用 ・言葉の力の充実 〈古典〉 古文領域 ・古文読解の充実(徒然草、更級日記等抄本講読) 漢文領域 ・漢文訓読の完成	近現代文学史（除詩歌の歴史） ・語彙力の充実、問題演習 ・古典文学史（除詩歌の歴史） ・訓点、再読文字、句法等の演習 ・資料の活用 入試頻出現代語、古文抄本、古文入試問題集基礎編
	6年	〈現代文〉（文系・理系） ・読解の応用 ・問題解決能力の向上 〈古典講読〉（文系） 古文領域 ・古文読解の充実、応用（大鏡、源氏物語等抄本講読） 漢文領域 ・漢文訓読の充実、応用	〈自由選択科目〉 ・共通テスト入試問題演習（文系・理系） ・古漢入試問題演習（文系） ・現代文入試問題演習（文系） ・小論文演習（文系・理系）

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 国語科
科目名 国語

対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 日本語能力に基づく思考力・判断力・表現力の習得。
- 2 日本語に関する知識・技能の習得。日本語・日本文化に興味・関心を持つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 講義
- 2 ペアワーク
- 3 グループワーク

III 教科書・補助教材

教科書 光村図書「国語 3 年」 東京書籍「新編 新しい書写 1・2・3 年」
副教材 浜島書店「国語便覧 東京都版」 とうほう「中学生の文法」 第一学習社「チャレンジ常用漢字」
明治書院「現代を読む はじめての評論文 20 選」
尚文出版「必携 これからの古典文法 改訂版」 文英堂「原色小倉百人一首」 京都書房「小倉百人一首暗唱シート」

IV 学習計画

	月	学 習 内 容			授業 時数	備 考	
		考 査	A「知識・技能」 B「思考力・判断力・表現力」 C「主体的に学習に取り組む態度」				
一 学 期	春休み 宿題	宿 題 テスト	2 年次の復習 副 (古文) 副 (漢字) 教国語 2 P157「君は『最後の晩餐』を知っているか」 P272「五重塔はなぜ倒れないか」			1	
	4 5	1 学期 中 間 考 査	自分の考えと比較する 教P26「評価しながら聞く」 生き方について考えを深める 教P14「握手」 論理の展開を捉える 教P42「作られた『物語』を超えて」 副 (単語・評論) 書写「行書の書き方」	古文の言葉の響きを味わう 教P146「古今和歌集／仮名序」 和歌に表れた心情や情景を読み取る 教P148「君待つと」 副 (便覧) P108「万葉集・古今集・新古今集」 副 (文法) 口語文法の復習		1 9	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	俳句の世界に親しむ 教P70「俳句の可能性」 P74「俳句を味わう」 説得力のある批評文を書く 教P130「多角的に分析して書こう」 スピーチの構成を工夫する 教P52「説得力のある構成を考えよう」 副 (単語・評論) 書写「行書と仮名の調和」	作者のものの見方や考え方を読み取る 教P154「夏草」 おくのほそ道から 副 (便覧) P92「おくのほそ道」 文語の決まりを知る 副 (文法) 文語文法「品詞」		3 0	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	教P87「羊と鋼の森」	副 (便覧) P92「おくのほそ道」		1	
	二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	比喻や象徴的な表現に着目する 教P94「挨拶」 場面や登場人物の設定を考える 教P98「故郷」 メディアを比較する 教P64「報道文を比較して読もう」 副 (単語・評論)	古典と自分たちの生活と関連づけて考える 教P28「学びて時に之を習ふ」 論語から 副 (便覧) P210「漢文の知識」 P212「孔子と論語」 副 (文法) 文語文法「動詞」		2 3
1 0 1 1 1 2		2 学期 期 末 考 査	批判的に読む 教P124「人工知能との未来」 自分の考えを深める 教P126「人間と人工知能と創造性」 副 (単語・評論) 書写「楷書」「行書」	古典と自分たちの生活と関連づけて考える 副 (便覧) P214「故事成語」 P78「説話集」 副 (文法) 文語文法「形容詞・形容動詞」		3 6	
冬休み 宿 題		宿 題 テスト	教P196「温かいスープ」	副 (百人一首)		1	
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	筆者のものの見方や考え方を捉え、生き方を考 える 教P166「誰かの代わりに」 教P200「わたしを束ねないで」 教P140「初恋」 副 (単語・評論)	副 (百人一首) 副 (文法) 文語文法「形容詞・形容動詞」		2 9	
					1 4 0		
評 価	○1・2 学期は 2 回、3 学期は 1 回の 100 点満点の定期テスト ○春季・夏季・冬季休業後の宿題テスト ○小テスト ○ノート、ワークシート等の提出物 ○朗読・スピーチ・グループ討議 など これらによる総合評価をおこなう。						

社会科

I 社会科の学習目標

◆地理・歴史分野

- （１）我が国及び世界の形成と歴史的過程について理解と認識を深める。
- （２）我が国及び世界の生活と文化の地域的特色について理解と認識を深める。
- （３）地理や歴史を学習することを通して、多角的・多面的な思考力を培い国際社会に主体的に生きる力を養う。
- （４）民主的、平和的な国家・社会の一員として、必要な自覚と資質を養う。

◆公民分野

- （５）広い視野に立って、現代社会について主体的に考察し、理解を深める。
- （６）人間として望ましい在り方について学び、主体的に意義ある人生を送れるようにする。
- （７）民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者をめざす。
- （８）政治的教養を高め、個人の尊厳を重んじ人格の完成をめざす実践的意欲を培う。

II 社会科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	◆地理分野 ・世界の姿 ・世界各地の人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ・日本の姿 ◆歴史 ・原始と古代の日本 ・中世の日本	・SDGsを意識した課題解決型の授業の展開（貧困と教育、環境問題と経済成長など）。 ・日本と世界とのつながりを意識したテーマ型の討論・探究活動の展開（東南アジアにおける日本企業の進出、今後の日米関係を考えるなど） ・総合「上野・浅草」探究 ・世界のさまざまな地域の調査 ・歴史討論 ・ノートの作り方指導
	2年	◆地理分野 ・世界と比べた日本の地域的特色 ・日本の諸地域 ・身近な地域の調査 ◆歴史 ・中世の日本 ・近世の日本 ・近代の日本と世界	・地形図、ハザードマップを活用し地域の防災についての課題解決型授業。 ・日本の領域と領土問題についての探究活動。 ・日本に視点をおいたSDGsを意識した課題解決型の授業の展開。 ・言語能力を高める活動を入れた歴史学習(時代考証スピーチ) ・歴史討論
	3年	◆歴史 ・近代の日本と世界 ・二度の世界大戦と日本 ◆公民 ・現代社会 ・人権の尊重と日本国憲法 ・国民主権と民主政治 ・私たちの暮らしと経済・国際社会	・史資料の読解 ・写真資料の読み取り ・地図の読み取り ・協同的論述課題学習 ・ディベート学習 ・社会問題についての討論 ・時事問題
高校段階	4年	《地理総合》【全員必修】 ・地図と地理情報システム活用（GIS） ・国際理解と国際協力 ・防災と持続可能な社会の構築（ESD） 《歴史総合》【全員必修】 「歴史の扉」、「近代化と私たち」、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」、そして「グローバル化と私たち」の4項目から近現代の歴史を考察	・大学入試問題の活用 ・図・表・写真資料の読み取り ・主体的、実践的な課題解決能力の育成
	5年	《世界史探究》 近代ヨーロッパの成立～帝国主義とアジアの民族運動 《日本史探究》日本文化のあけぼの～武家社会の成長 《公共》「公共の扉」、「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の項目ごとに現代社会の諸課題を捉え、他者との議論を通じて多面的・多角的に考察する。	・世界史の中の日本史の展開 ・史資料の読解 ・地図の読み取り ・写真資料の読み取り
	6年	《地理探究》【文系必修選択】世界の地形、世界の諸地域 《世界史探究》【文系必修選択】 諸地域世界の交流～アジア諸地域の動揺 《日本史探究》【文系必修選択】 日本文化のあけぼの～幕藩体制の動揺 《地理探究》《世界史探究》《日本史探究》【自由選択】 問題演習（地歴・公民科2科目目選択者用） 《政治経済》【文系理系共通履修】 民主政治の基本原理～現代社会の諸課題 《政治経済》【文系理系自由選択】共通テスト問題演習 《倫理》【文系理系自由選択】源流思想、西洋思想、日本思想、現代社会の諸課題	・大学入試問題を活用した図・表・写真資料などの深い読み取り。 ・多面的、多角的な思考方法と社会的な見方、考え方。 ・持続可能な社会を形成する個人としての社会参画意識。

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 社会科
科目名 公民・歴史
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- 2 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり及び現代の社会生活などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- 3 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させると共に、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- 4 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
- 5 現代史の内容を織り交ぜ、歴史的経緯を理解させる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 一斉授業
- 2 グループワーク
- 3 討論

III 教科書・補助教材

教科書	（公民的分野）「中学社会公民的分野」日本文教出版	（歴史的分野）「新しい日本の歴史」育鵬社
副教材	（公民的分野）「新しい公民」浜島書店	（歴史的分野）「アドバンス中学歴史資料」帝国書院
	「新中学問題集 公民3年」教育開発出版	「新中学問題集 歴史ⅠⅡ」教育開発出版
	「社会の自習教室」正進社	

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時 数	備 考	
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	◆公民的分野 第1編 私たちと現代社会 第1節 私たちが生きる現代 社会の特色 第2節 現代社会の文化と私 たち日本社会 P8-22	◆歴史的分野 Ⅴ 二度の世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦前後の 日本と世界 P205-221	◆「社会の自習教室」 P2-27 ◆公民 「公民資料」 P10-29 「問題集」 P42-45 ◆歴史 「問題集」 P4-15	2 2	
	6		第3節 現代社会の見方・ 考え方 P24-32 第2編 第1章 私たちの生活と政治		◆「社会の自習教室」 P28-55 ◆公民 「公民資料」 P30-61 「問題集」 P46-66 ◆歴史 「歴史の資料」 P124-135 「問題集」 P16-25		
	7		第1節 日本国憲法 第2節 憲法と基本的人権 第3節 平和主義 P36-73				
		夏 休 み		課題「社会の自習教室」		◆社会科課題 「社会の自習教室」 P56-91	
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第2編 第2章 私たちの生活と政治	第2節 第二次世界大戦終結ま での日本と世界 P222-248	◆「社会の自習教室」 P110-129 ◆公民 「公民資料」 P62-91 「問題集」 P68-114	3 3	
	1 0		第1節 民主政治のしくみ 第2節 三権分立 第3節 地方自治 P78-115				
	1 0		第3編 私たちの生活と経済 第1節 経済のしくみと消費 第2節 生産の場としての企業 第3節 金融のしくみとお金 P124-159	第1節 第二次世界大戦後の民 主化と再建 P249-261	◆「社会の自習教室」 P92-99,130-145 ◆公民 「公民資料」 P96-139 「問題集」 P120-160 ◆歴史 「歴史の資料」 P136-155 「問題集」 P26-41	3 3	
	1 1						
	冬 休 み		課題「社会の自習教室」		◆「社会の自習教室」 P110-129,P146-175		
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	第4編 私たちと国際社会 第5章 国際社会の課題	第2節 経済大国・日本の 国際的役割 P262-275	◆「社会の自習教室」 P100-109,138-145 ◆公民 「公民資料」 P104-147 「問題集」 P166-190 ◆歴史 「歴史の資料」 P156-157	2 0	
	2		第1節 国家と国際社会				
	3		第2節 持続可能な社会 P178-207				
					1 5 0		
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考查（各学期、年間5回）、②提出物（宿題・ノート、課題プリント） ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）						

数学科

I 数学科の学習目標

- (1) 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。
- (2) 事象を数学的に考察する能力を高めながら、数学的な見方・考え方を育む。
- (3) 数学的な活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。
- (4) 6年間の学習を系統的にまとめ、それらを実践的に活用できるよう、多面的な見方・考え方や論理的に考える力を養い、問題解決能力を高めていく。

II 数学科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	[代数] 正負の数・式の計算（文字式、多項式の計算） 方程式・不等式（1次方程式、連立方程式、不等式の性質） 1次関数（比例、反比例、1次関数） 資料の整理と活用（ヒストグラム、代表値） [幾何] 平面図形・空間図形（作図、いろいろな立体、立体の切断）	・習熟度別少人数制授業（2クラス3展開中心） ・発展的な内容 [代数] 単項式の乗除、文字式の利用、連立方程式、連立方程式の利用、1次関数（中2） ・関連する行事 数学検定（希望者）
	2年	[代数] 不等式（1次不等式、連立不等式） 式の計算（展開・因数分解） 平方根（根号を含む式の計算、有理数と無理数） 2次方程式（2次方程式の解き方、その応用） データの活用（データの散らばりと四分位範囲） 確率と標本調査（場合の数、確率の計算、標本調査） [幾何] 図形と合同（平行線と角、三角形の合同） 三角形と四角形（二等辺三角形、正三角形、平行四辺形） 図形と相似（三角形の相似、相似な図形の面積比・体積比）	・習熟度別少人数制授業（2クラス3展開中心） ・発展的な内容 [代数] 1次不等式、不等式の利用、連立不等式（数Ⅰ） 展開・因数分解、2次方程式（中3・数Ⅰ） 平方根、有理数と無理数（中3） 順列と組合せ、確率（数A） [幾何] 三角形の辺と角（数A） ・関連する行事 数学検定（希望者）
	3年	[代数] 数と式（多項式の展開・因数分解、実数） 関数（ $y=ax^2+bx+c$ のグラフと応用、最大・最小） 2次不等式（2次不等式の解き方） [幾何] 線分の比と計量（線分の比と面積比） 円（三角形の五心、円周角の定理、内接四角形、接線、方べきの定理、2つの円） 三平方の定理（平面図形、空間図形） ＊中学3年間のまとめ（高校入試問題演習）	・習熟度別少人数制授業（一部） ・発展的な内容 [代数] 多項式の計算（数Ⅰ・数Ⅱ） 2次関数、2次不等式（数Ⅰ） [幾何] 図形の相似と面積比・体積比（数A） メネラウス・チェバの定理（数A） 円周角の定理、内接四角形、接線（数A） ・関連する行事 数学検定（希望者）
高校段階	4年	[数学Ⅰ] 2次関数（2次関数の最大・最小、2次方程式・不等式） 図形と計量（三角比の拡張、正弦定理・余弦定理） データの分析（分散・標準偏差、相関係数、仮説検定） [数学A] 場合の数・確率（順列・組合せ、反復試行、条件付き確率） 図形の性質（三角形の五心、円の性質、作図、空間図形） 数学と人間の活動（倍数・約数、不定方程式、n進法、整数問題） [数学Ⅱ] 式と証明（二項定理、相加・相乗の関係） 複素数と方程式（解と係数の関係、剰余の定理・因数定理） 図形と方程式（点と直線、円の方程式、軌跡と領域）	・習熟度別少人数制授業を実施（予定） ・発展的な内容 [数学Ⅰ] 平均・分散の変数変換（数B） 仮説検定（数B） いろいろな式（数Ⅱ） [数学A] 整数、方程式（数Ⅱ） [数学Ⅱ] 複素数と方程式（数Ⅱ） 図形と方程式（数Ⅱ） ＊各クラスで大学入試問題演習を適宜実施。
	5年	[数学Ⅱ] いろいろな関数（三角関数、指数関数・対数関数） 微分法と積分法（微分係数、導関数、不定積分、面積） [数学B] 数列（数列とその和、漸化式、数学的帰納法） 統計的な推測（仮説検定、確率分布） [数学C] ベクトル（平面ベクトル、空間ベクトル）（理系のみ） 複素数平面（極形式、ド・モアブルの定理） [数学Ⅲ]（理系） いろいろな関数（分数関数、無理関数、逆関数） 極限（数列の極限、関数の極限）	・習熟度別少人数制授業を実施（予定） ・発展的な内容 [数学Ⅱ] 積・商の微分、合成関数の微分（数Ⅲ） 理系のみ 分数関数・無理関数・逆関数（数学Ⅲ） 数列の極限・関数の極限（数学Ⅲ） [数学B] 理系：複素数平面（数Ⅲ） 文系：数学ⅠAⅡB問題演習 ＊各クラスの進路に応じた大学入試問題演習を実施。
	6年	[数学C] 式と曲線（2次曲線、媒介変数表示と極座標） [数学Ⅲ]（理系） 微分法（三角関数・指数関数・対数関数の微分） 微分法の応用（導関数の応用、速度・加速度） 積分法（不定積分の基本性質、置換積分法、部分積分法） 積分法の応用（面積、体積、曲線の長さ） [数学Ⅱ]（文理系） 国公立2次・私大を志向した数学ⅠAⅡB演習 [自由選択科目]（文理系、文系） 国公立2次・私大を志向した数学ⅠAⅡB演習	・生徒の能力や適正、進路希望に応じた選択履修を実施。 [必修科目] 数学Ⅲ（理系：国公立・私大2次対策） 数学Ⅱ（文理系：国公立・私大2次対策） [自由選択科目] 数学演習α（文理系、文系） 数学演習β（文理系、文系） 数学演習γ（文理系、文系）

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 数学科
科目名 数学
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 数学の中学校段階における基礎・基本となる事項の知識と技能を習得する。
- 2 数学的な見方や考え方のよさを知るとともに、それらを活用する態度を養う。
- 3 数学的活動を通して、数学を学ぶ楽しさを実感し、数学に関する興味・関心を高める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 総授業数 年間授業時数 1 7 5 時間
- 2 授業形態 少人数・習熟度別授業 1 学級 2 展開 週 5 時間のうち 2 時間

III 教科書・補助教材

教科書 『中学数学 3』教育出版
補助教材『体系数学 2 代数編』『体系数学 2 幾何編』『体系数学 3 数式・関数編』数研出版
『体系問題集 数学 2 代数編 〔発展〕完成ノート』『体系問題集 数学 2 幾何編 〔発展〕完成ノート』数研出版
『体系問題集 数学 3 数式・関数編』数研出版 『はぎとり式 練習ドリル 数学 I 標準編』数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考	
		考 査	『体系数学』の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	春期休業課題（１～２年次の復習）		1		
	4 5	1 学期 中 間 考 査	『体系数学 2 幾何編』 P17～53 第 1 章「相似な図形」 第 2 章「線分の比と計量」 1 三角形の重心 2 線分の比と面積比	『体系問題集 数学 2 幾何編』 完成ノート	14		
			『体系数学 2 代数編』 P 86～99 第 4 章「関数 $y=ax^2$ 」 1 関数 $y=ax^2$ 2 関数 $y=ax^2$ のグラフ 3 関数 $y=ax^2$ の値の変化	『体系問題集 数学 2 代数編』 完成ノート ・探究的な学習 ・高校入試問題演習	15		
	6 7	1 学期 期 末 考 査	『体系数学 2 幾何編』 第 3 章「円」 P 69～85 2 円周角 3 円に内接する四角形 4 円の接線 第 4 章「三平方の定理」 P 110～117 1 三平方の定理 2 三平方の定理と平面図形 3 三平方の定理と空間図形	『体系問題集 数学 2 幾何編』 完成ノート	20		
			『体系数学 2 代数編』 P 100～111 第 4 章「関数 $y=ax^2$ 」 4 関数 $y=ax^2$ の利用 5 いろいろな関数	『体系問題集 数学 2 代数編』 完成ノート ・探究的な学習 ・高校入試問題演習	13		
		夏休み 宿 題	宿 題 テスト	夏期休業課題（入学時～３年 1 学期の復習）		1	
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	『体系数学 2 幾何編』 P 54～107 第 2 章「線分の比と計量」 3 チェバの定理 4 メネラウスの定理 第 3 章「円」 1 外心と垂心 5 接線と弦のつくる角 6 方べきの定理 7 2 つの円 『体系数学 3 数式・関数編』 P 6～44 第 1 章 数と式	『体系問題集 数学 2 幾何編』 完成ノート 『体系問題集 数学 3 数式・関数編』 P 4～23 ・探究的な学習 ・高校入試問題演習	16 19		
			『体系数学 3 数式・関数編』 P 81～113 第 3 章「2 次関数とグラフ」 1 2 次関数のグラフ 2 関数のグラフの移動 3 2 次関数の最大、最小 4 2 次関数の決定 5 2 次関数のグラフと方程式	『体系問題集 数学 3 数式・関数編』 P 46～60 ・探究的な学習 ・高校入試問題演習	21 17		
		冬休み 宿 題	宿 題 テスト	冬期休業課題（入学時～３年 2 学期の復習）		1	
	三 学 期	1 2 3	3 学期 学年末 考 査	『体系数学 3 数式・関数編』 第 3 章「2 次関数とグラフ」 P 114～132 6 2 次不等式 7 2 次不等式の応用 第 5 章「三角比」 P 179～216 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理・余弦定理 5 三角形の面積	『体系問題集 数学 3 数式・関数編』 P 61～71, P 98～115 ・探究的な学習 ・高校入試問題演習	15 13 9	
				計 1 7 5			
評 価		学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間 5 回）、②宿題テスト（春休み、夏休み、冬休み、年間 3 回）、③確認テスト（単元に対応） ④提出物（課題ノート、課題プリント）、⑤学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

6年間を見通した教科の指導計画（令和2年度入学生）

理科

I 理科の学習目標

- （1）目的意識をもって実験・観察などを行い、探究心を高め、自然を主体的に学習する態度を育成する。
- （2）実験・観察を通して探究活動を行い、科学的に自然を調べる方法を身につけ、問題解決能力を育成する。
- （3）自然の事物・現象に見られる原理・法則等を理解し、自然について分析的、総合的に考察する能力を養い、科学的な自然観を育成する。
- （4）科学や自然と人間とのかかわりの視点に立ち、自然を総合的にみる見方や、科学的なものの見方を育成する。

II 理科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容		発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等	
中学段階	1年	中学の内容を、物理・化学・生物・地学の4つの分野に分け、高校の内容との関連を図りながら、系統立てて学習させる。 《物理》 光・音・力による現象 《化学》 身のまわりの物質 《生物》 いろいろな生物とその共通点 《地学》 大地の変化		《物理》 身近な物理現象について、高校の範囲まで踏み込んだ実験を扱う 《化学》 物性および状態変化について、高校化学の内容を見通し発展的な内容も扱う。 《生物》 ルーペや顕微鏡を用いた観察、シダ植物の生活環や無脊椎動物の分類もあつかう 《地学》 地震波の伝わり方のちがい、地球史、プレートテクトニクスを扱う	
	2年	《物理》 電気の世界、運動とエネルギー 《地学》 天気とその変化、地球と宇宙		《物理》 静電気、運動とエネルギーについて、定量的に扱う 《地学》 天気図の作成、月や惑星の表面の様子、宇宙の構造と進化	
	3年	《化学》 化学変化と原子・分子、化学変化とイオン、科学技術と人間 化学と人間生活、物質の構成 《生物》 生物の体のづくり、生命の連続性、自然と人間		《化学》 ・原子の構造について発展的に扱う。 ・物質の種類と化学反応式について発展的に扱う ・酸化還元反応について発展的に扱う。 ・科学技術と人間 ・物質の構成について、高校の化学基礎の内容を加味した内容を扱う。 《生物》 ・細胞は電子顕微鏡で観察した場合にのみ観察できる内容についても取り扱う ・酵素の特徴についても扱う ・遺伝は遺伝の法則についてくわしく取り扱う	
高校段階	4年	《物理基礎》必修 2単位 ・物体の運動とエネルギー ・さまざまな物理現象とエネルギーの利用 《化学基礎》必修 2単位 ・化学と人間生活(単体・化合物, 熱運動と物質三態など) ・物質の構成(原子・周期表・分子・イオン・化学結合) ・物質の変化(物質質量, 化学反応式, 酸・塩基, 酸化・還元など)		《物理基礎》 ・中学までに学んでいる自然の見方、探求の仕方を再確認し、その方法を用いて、身近な生活にみられる運動とエネルギー、熱、波、電気について学習する。 《化学基礎》 ・「物質の構成と化学結合」「物質の変化」の学習を通して、物質とその変化への関心を持ち、目的意識を持って観察・実験を行い、科学的に探求する態度を養う。	
	5年	《物理 理系Ⅰ必修 4単位》 物理基礎の応用として、平面内の運動、剛体、運動量、円運動・単振動・惑星の運動、熱と気体、電磁気について学ぶ。 《生物 理系Ⅱ必修 4単位》 「生命現象と物質」「遺伝子の働き」「生殖と発生」および「生物の環境応答」の分野の項目を学習する。 《化学基礎 文系・理系Ⅰ 必修選択3単位》 「物質の構成と化学結合」「物質の変化」について中心に学習する。 《地学基礎 文系・理系 必修選択3単位》 「固体地球とその変動」「移り変わる地球」「大気・海洋」「宇宙の構成」「自然との共生」			
	6年	必選 物理演習 理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。 自選 物理 理系 2 単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 物理基礎 文理系・文系 1 単位 4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。	自選 生物 理系・文理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、「生態と環境」「生物の進化と系統」の分野の項目についての復習と、大学入学共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 自選 生物基礎 文系・文理系 1 単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	化学 理系・文理系必選 6 単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 自選 化学基礎 文理系・文系 1 単位 『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	地学 理系・文理系 必選 6 単位 (1) 地球の形状や内部構造 (2) 地球の活動と歴史 (3) 地球の大気と海洋 (4) 宇宙の構造 自選 地学基礎 文理系・文系 1 単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系共通テストをターゲットとした問題演習を行う。

教科名 理科
科目名 化学
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、高校で学ぶ学習内容を見通し、化学に関する本質的な知識や技能、科学的に探究するための力を講義、演習、実験を通して習得させる。
- 2 化学変化における物質の変化や量的な関係を、探究的に追究させるとともに、それらの現象について原子・分子のモデルを用いた微視的物質概念の育成をはかる。
- 3 水溶液の電気伝導性をきっかけとして、高校化学を見通してイオンの概念を形成させる。原子、分子、イオン、電子を用いた粒子概念を活用して、物質の挙動を考えられるような科学的思考力を身につけさせる。
- 4 化学の授業全体を通じて、科学的に探究する態度を育む。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 7 0 時間（理科 1 4 0 時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、実験、演習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「探究する新しい科学 2」、「探究する新しい科学 3」東京書籍
補助教材	「最新 理科便覧 東京都版」浜島書店、「中学の化学」教育出版、「ニューステージ 新化学図表」浜島書店 「スタディトライアル理科 実践編」新学社、3 年間の学習内容について総合的な復習が行える教材を予定

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4 5	1 学期 中 間 考 査	探究する新しい科学 2 1 章 物質のなり立ち 1 ホットケーキの秘密 2 水の分解 3 物質をつくっているもの 4 分子と化学式 5 単体と化合物・物質の分類	初回授業において授業の進め方について説明 理科便覧 「ニューステージ 新化学図表」 授業・実験プリント 問題集「物質の成り立ち」の学習内容に対応した部分	5 ～ 6 4 ～ 6	1 0
	5 6 7	1 学期 期 末 考 査	2 章 物質どうしの化学変化 1 異なる物質の結びつき 2 化学変化を化学式で表す 4 章 化学変化と物質の質量 1 化学変化と質量の変化 2 物質と物質が結びつくときの物質の割合 3 章 酸素がかかわる化学変化 1 物が燃える変化 2 酸化物から酸素をとる化学変化	理科便覧 「ニューステージ 新化学図表」 授業・実験プリント 問題集「物質どうしの化学変化」, 「化学変化と物質の質量」、「酸素がかかわる化学変化」の学習内容に対応した部分	5 ～ 6 6 ～ 7 3 ～ 4	1 6
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	5 章 化学変化とその利用 1 化学変化と熱 探究する新しい科学 3 第 1 章 水溶液とイオン 1 水溶液と電流 2 電解質の水溶液の中で起こる変化 3 イオンと原子のなり立ち 第 3 章 化学変化と電池 1 電解質の水溶液の中の金属板と電流	理科便覧 「ニューステージ 新化学図表」 授業・実験プリント 問題集「化学変化とその利用」、 「水溶液とイオン」、「化学変化と電池」の学習内容に対応した部分	2 ～ 3 5 ～ 6 4 ～ 6	1 4
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	2 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ 3 ダニエル電池 第 2 章 酸、アルカリとイオン 1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 2 酸性、アルカリ性の正体 3 酸とアルカリを混ぜたときの変化	理科便覧 「ニューステージ 新化学図表」 授業・実験プリント 問題集「化学変化と電池」、「電気分解・電池とイオン」「酸・アルカリとイオン」、「中和とイオン」、の学習内容に対応した部分	9 ～ 10 6 ～ 7	1 6
三 学 期	1 2 3	3 学期 学年末 考 査	第 3 章 科学技術と人間を含む 3 年間の総復習 発展 化学基礎の内容 1 化学と人間生活 2 純物質と混合物 3 物質とその成分	理科便覧 「ニューステージ 新化学図表」 授業・実験プリント	3 ～ 5 9 ～ 1 1	1 4
					7 0	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間 5 回 ②提出物：考査ごとの授業および問題集ノート、夏休みの問題演習など ③学習の様子：授業（特に観察や実験実施時）への取り組み状況など					

教科名 理科
科目名 生物
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、中学校理科と高等学校生物の重複している部分を精選することによって、科目に関する高度な知識を、講義、演習、観察、実験を通して習得させる。
- 2 生命の連続性に関して、遺伝や発生・生殖などの生物学的な現象に見られる原理や法則を理解し、考える能力を養う。
- 3 自然環境を保全し、生命を尊重する態度を育て、自然を総合的に見ることができるようにする。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 7 0 時間（理科 1 4 0 時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、観察や実験、演習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「新しい科学 2」東京書籍、「新しい科学 3」東京書籍
補助教材	「最新 理科便覧 東京都版」浜島書店 「中学の生物」教育開発出版株式会社 「新課程版スクエア 最新図説生物」第一学習社 「スタディトライアル 理科 実践編」新学社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4 5	1 学期 中 間 考 査	新しい科学 2 1 章「生物と細胞」 細胞のつくりについての観察を行う 2 章「植物のからだのつくりとはたらき」	初回授業において授業の進め方について説明 最新理科便覧・図説生物・観察プリント 問題集の学習内容に対応した部分 細胞のつくりやはたらきについて 高校内容も扱う	5 ～ 6 4 ～ 5	1 0
	5 6 7	1 学期 期 末 考 査	2 章「植物のからだのつくりとはたらき」 3 章「動物のからだのつくりとはたらき」 唾液のはたらきについての実験を行う 心臓・腎臓の観察実験を行う	最新理科便覧・図説生物・実験プリント 問題集の学習内容に対応した部分 酵素の性質・腎臓・肝臓の働きについて・感覚器官の名称や働きなどについて高校内容も扱う	1 2 ～ 1 3 3 ～ 4	1 6
	夏休み 宿 題		問題集			
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	4 章「刺激と反応」 刺激と反応についての実験を行う 新しい科学 3 1 章「生物の成長と生殖」 細胞分裂・受精について映像等で確認する	最新理科便覧・図説生物・観察プリント 問題集の学習内容に対応した部分 神経のつくりや動物と植物の体細胞分裂の違い・体細胞分裂時に出現する各器官の名称なども扱う	8 ～ 9 5 ～ 6	1 4
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	新しい科学 3 1 章「生物の成長と生殖」 2 章「遺伝の規則性と遺伝子」 遺伝の法則について重点的に演習を行う 3 章「生物の移り変わりと進化」 1 章「自然のなかの生物」	最新理科便覧・図説生物・演習プリント 問題集の学習内容に対応した部分 二遺伝子雑種・中間雑種・DNA の構造なども扱う 生産種・消費者・分解者について扱う	5 ～ 6 8 ～ 9 2 ～ 3	1 6
	冬休み 宿題		問題集			
三 学 期	1 2 3	3 学期 学年末 考 査	1 章「自然のなかの生物」 炭素・窒素循環 2 章「自然環境の調査と保全」 3 年間の総復習	最新理科便覧・図説生物 脱窒・窒素固定・アオコ・赤潮についても扱う 環境と人間生活のかかわり 問題演習を通して、3 年間の総復習を行う	6 ～ 7 6 ～ 7	1 4
					7 0	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間 5 回 ②提出物：考査ごとの授業および問題集ノート、実験プリント、夏休み冬休みの問題演習など ③学習の様子：授業（実習）への取り組み状況など					

音楽科

I 音楽科の学習目標

- (1) 中学段階では、音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 高校段階では、音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。
- (3) 6年間を通して、音楽に対する感性を豊かにするとともに、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

II 音楽科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学 段階	1年	A表現 （1）歌唱：斉唱、混声三部合唱 （2）器楽・創作：アルトリコーダー・三味線 B鑑賞 （1） 芸術歌曲 （2） 管弦楽曲	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表
	2年	A表現 （1） 歌唱：独唱、混声三部合唱 （2） 器楽・創作：アルトリコーダー・三味線 B鑑賞 （1） 管弦楽曲 （2） オペラ、日本の伝統芸能	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表
	3年	A表現 （1） 歌唱：独唱、混声三部合唱、混声四部合唱 （2） 器楽：三味線 B鑑賞 （1） 管弦楽曲 （2） 日本の伝統芸能	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表 芸術鑑賞教室
高校 段階	4年	音楽Ⅰ（必修選択） 歌唱 独唱・混声四部合唱・アカペラ 器楽 三味線実技、鍵盤楽器 鑑賞、創作、理論	芸術鑑賞教室 合唱コンクールクラス曲の練習および発表 混声四部合唱曲の練習および発表
	5年		合唱コンクールクラス曲の練習および発表
	6年	音楽Ⅰ・Ⅱ（自由選択／2単位） （1） 実技演習 （2） 鑑賞 （3） 楽典	入試過去問題演習 個人レッスン

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 音楽科
科目名 音楽
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。(2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ。

II 授業の進め方（授業形態等）

歌唱 独唱・混声三部合唱・混声四部合唱
器楽 三味線実技
鑑賞、創作、理論 講義形式またはグループワーク

III 教科書・補助教材

教科書 「中学生の音楽 2・3 下」教育芸術社「中学器楽 音楽のおくりもの」教育出版
補助教材 「やさしく学べる三味線入門」全音楽譜出版社「コーラスフェスティバル」正進社「ミュージックノート」正進社
三味線道具

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4		読譜、呼吸法、発声法	ミュージックノート	3	
	5		歌唱「花」他P10～15 アルトリコーダー 器楽P4～19		3	
	6	1 学期 期 末 考 査	鑑賞「ボレロ」 P37～39 歌唱「Let it be」 P28～29 歌唱実技試験	ミュージックノート	2 3 1	
	7		楽典		1	
			課題			
二 学 期	9		鑑賞「巢鶴鈴慕」 P42～43	三味線入門	2	
	1 0		器楽 三味線の扱い方・基本的奏法など 三味線実技「虫のこえ」他		4	
			楽典		2	
	1 0	2 学期	器楽 三味線実技練習	三味線入門	3	
	1 1	期 末 考 査	三味線実技試験		2	
	1 2		ルールを守って音楽を楽しもう P64～65		2	
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1	3 学期	合唱コンクール クラス曲練習	コーラスフェスティバル	4	
	2	学年末 考 査	卒業式歌練習		2	
	3		歌唱実技試験		1	
					3 5	
評 価	各学期実技テストや定期考査等のテストに平常点（宿題やワークシートの提出・授業中の取り組み）を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別で評価する。各学期 5 段階評価。					

美術科

I 美術科の学習目標

- (1) 中学段階においては、美術を愛好する心情を育てるとともに、美術の基礎的な能力を伸ばす。
- (2) 高校段階においては、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、個性豊かな表現の能力を伸ばす。
- (3) 6年間を通して、美術に対する感性を豊かにするとともに、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

II 美術科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・自画像 ・模写 (2) デザインと工芸など ・レタリング ・一版多色刷り B鑑賞	体験活動 ・東京国立博物館、東京都美術館 見学
	2年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・他画像 ・透視図法による絵画 (2) デザインと工芸など ・ハイコントラスト ・石彫（篆刻） B鑑賞	体験活動 ・諸美術館、ギャラリー等の見学
	3年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・自画像 ・静物画 (2) デザインと工芸など ・ポスターデザイン ・フォトリアリズム B鑑賞	日本の伝統文化 ・日本の文化遺産、美術作品模写 ・日本の文化遺産、芸術調べ学習 ・鑑賞（校外学習）
高校段階	4年	《美術Ⅰ》【必修選択】 (1) 絵 画・「水彩画」ひとつの色にとらわれることのないように彩色をする。モチーフの持つイメージをとらえ、画面に表現をする。 (2) デザイン・「タイポグラフィー」デザインにより伝えることのできる可能性について学習する。 ・「パッケージデザイン」普段目にする製品のデザインに着目し、そのすべてに意味があることに気づく。 (3) 立体造形・「金 工」材料の特性を理解し、制作活動を行う。	
	5年		
	6年	《美術Ⅰ・Ⅱ》【自由選択】 ○自由制作 ・1年間を通した制作スケジュールを各自で計画する。 ・文化祭に1作品、卒業までに1作品を完成させ、それぞれ発表、展示する。 ＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。	

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 美術科
科目名 美術
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 積極的に美術活動に取り組み、美術を愛好する心情をさらに深める。
- 2 心豊かな表現の構想を練り、想像力を働かせ、様々な表現方法を使って作品を制作する力を伸ばす。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 3 5 時間
- 2 美術室における制作活動
- 3 鑑賞 （美術館等）

III 教科書・補助教材

教科書 光村図書「美術 2・3 上下」
補助教材 秀学社「レタリング辞典」

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4 5		・オリエンテーション ・静物画（鉛筆デッサン） エスキースについて 構図の取り方について 立体感（明暗）の付け方について	鉛筆デッサンについてのプリント	9	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	・美術史 伽藍配置について 仏像について ・1 学期期末テスト ・テスト解説	プリント学習	2 1 1	
	夏休み 宿 題		・美術館鑑賞レポート			
二 学 期	9 1 0		・ポスターデザイン グラフィックデザインについて アイディアスケッチ制作 着色	アイディアスケッチについてのプリント	1 0	
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	・美術史 印象派から現代美術まで ・2 学期期末テスト ・テスト解説	プリント学習	2 1 1	
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	・フォトリアリズム ・学年末テスト ・テスト解説、まとめ	フォトリアリズムについてのプリント	6 1 1	
					3 5	
評 価	以下の点を中心に、定期考査・実技・提出物・授業態度等をもとにして評価する。 1 授業に取り組む姿勢・態度 2 美術史、色彩論等の基本理解 3 表現を楽しんだり、工夫したりすることができたか 4 美術作品を鑑賞することができたか					

保健体育科

I 保健体育科の学習目標

- （１）各種の運動における合理的な実践を通して体力を養い、心身の調和的発達を図る。
- （２）公正、協力、責任などの態度を培い、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てる。
- （３）運動や健康について自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う
- （４）個人及び集団生活における健康・安全について理解を深める。
- （５）個人及び集団生活における心身の健康を保持増進する資質や能力を育てる。

II 保健体育科の6年の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・心身の発達と心の健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
	2年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・健康と環境、傷害の防止	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
	3年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・健康な生活と病気の予防	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
高校段階	4年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・選択種目（球技・柔道、ダンス） ・陸上競技 保健 ・現代社会と健康 ・生涯を通じる健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会 ・部活動合宿
	5年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・陸上競技 ・体育理論 保健 ・社会生活と健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会 ・部活動合宿
	6年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・カドリール	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

- 1 体育的活動を通して運動の楽しさを味わい、運動・体力の必要性について理解し、基本的な技能を身につける。
- 2 自己や集団の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考判断し、考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- 3 運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・一人一人の違いを大切にする意欲を高める。
- 4 健康・安全を確保して生涯にわたって運動に親しめる態度を高める。
- 5 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を高める。

- 年間授業時数 105 時間
- 授業内容によって学級別・男女別・習熟度別で展開をする

教科書	大日本書籍「新版 中学校保健体育」
副教材	大修館書店「ステップアップ中学体育」

学期	月	学習内容				授業時数		備考
		A		B				
一学期	4	体づくり運動 集団行動 (白鷗体操、新体力テスト)	体育理論 7. 現代スポーツにおけるスポーツの文化的意義P136-137	体づくり運動 集団行動 (白鷗体操、新体力テスト)	体育理論 7. 現代スポーツにおけるスポーツの文化的意義P136-137	8	体育理論 1	
	5	陸上競技 (短距離・リレー)	保健 1. 健康の成り立ちと病気の発生要因P78-79 2. 食生活と健康P80-81 3. 運動と健康P82-83 4. 休養・睡眠と健康P84-85 5. 生活習慣病の予防P86-89 6. 喫煙の害と健康P90-91 7. 飲酒の害と健康P92-93	陸上競技 (短距離・リレー)	保健 1. 健康の成り立ちと病気の発生要因P78-79 2. 食生活と健康P80-81 3. 運動と健康P82-83 4. 休養・睡眠と健康P84-85 5. 生活習慣病の予防P86-89 6. 喫煙の害と健康P90-91 7. 飲酒の害と健康P92-93	5	保健 4	
	6	球技 (サッカー)		球技 (バレーボール)		8	保健 4	体育祭
	7	水泳		水泳		6		
	夏休み宿題							
二学期	9	水泳	体育理論 8. 国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割P138-139	水泳	体育理論 8. 国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割P138-139	8	体育理論 1	
	10	球技 (バドミントン)	保健 8. 薬物乱用の害と健康P94-95 9. 薬物乱用の社会への影響P96-97	球技 (サッカー)	保健 8. 薬物乱用の害と健康P94-95 9. 薬物乱用の社会への影響P96-97	7	保健 5	
	11	武道 (柔道)	10. 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処 P98-99 11. 感染症と病原体P100-101 12. 感染症の予防P102-103 13. 性感染症の予防P104-105 14. エイズの予防 P106-107	球技 (バスケットボール)	10. 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処 P98-99 11. 感染症と病原体P100-101 12. 感染症の予防P102-103 13. 性感染症の予防P104-105 14. エイズの予防 P106-107	9	保健 3	
	12	陸上競技 (長距離走)		ダンス		6		スポーツ大会
	冬休み宿題							
三学期	1	陸上競技 (長距離走)	体育理論 9. 人々を結びつけるスポーツの文化的はたらきP140-141	陸上競技 (長距離走)	体育理論 9. 人々を結びつけるスポーツの文化的はたらきP140-141	8	体育理論 1	
	2	球技 (バスケットボール)	保健 15. 保健・医療機関の利用P108-109 16. 医薬品の利用P110-111 17. 個人の健康を守る社会の取り組み P112-113	球技 (卓球)	保健 15. 保健・医療機関の利用P108-109 16. 医薬品の利用P110-111 17. 個人の健康を守る社会の取り組み P112-113	8	保健 4	
	3				9			
						8 2	2 3	
						1 0 5		
評価	評価・評定については以下の3観点をもとに総合的に評価する。 【観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 【評価材料】 ①定期考査 ②学習カード ③技能テスト、記録 ④観察（授業参加態度、提出物状況、課題解決能力・判断能力等）							

技術・家庭科

I 技術・家庭科の学習目標

- （１）日常の家庭生活に関心をもち、生活を見直す姿勢を養う。
- （２）生活課題を解決するために実際の生活の場で実践できる基礎的な知識と技術を身に付けさせる。
- （３）どうすればよいのか判断して意思決定し、よりよい生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
- （４）社会の変化に主体的に対応できる人間育成を目指して、生活の自立と生きる力を育む。

II 技術・家庭科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容		発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	家庭分野【全員必修】 家庭分野ガイダンス C 衣生活・住生活の自立 (2) 衣生活の自立 1 日常着の活用 2 日常着の手入れ 3 布を用いた物の製作 (1) 住生活の自立 1 住まいのはたらき 2 健康で安全な住まい 3 住まいと地域 持続可能な社会をつくる 生活の課題と実践	技術分野【全員必修】 技術分野で何を学ぶか A 材料と加工に関する技術 1 身近な材料で簡単なものづくり 2 木材を使った正確な物づくり 3 木材の性質と利用 4 アイデアを生かす製品の設計 5 工夫を凝らしたものづくり 6 強さへの挑戦 C 生物育成に関する技術 3 生物育成の知識を身につけよう D 情報に関する技術	テーマ学習 ・日本と世界の伝統的衣服 ・日本の住居、世界の住居 日本の伝統文化
	2年	家庭分野【全員必修】 B 食生活と自立 1 健康と食生活 2 食品の選択と保存 3 調理をしよう 4 地域の食材と食文化 持続可能な社会をつくる 生活の課題と実践	技術分野【全員必修】 B エネルギー変換に関する技術 1 エネルギーを取り出す技術 2 電気エネルギーの利用 3 電気回路の働き 4 機械の仕組み 5 エネルギー問題を解決する技術 C 生物育成に関する技術 1 毎日の食事が楽しくなる野菜作り 2 生物育成の技術を身につけよう D 情報に関する技術 4 情報に関する技術のこれから	テーマ学習 ・地域を知る ・郷土料理（我が家の味、世界の味）と行事食 プレゼンテーション能力 ・コンピュータリテラシーと情報モラル ・プレゼンテーションソフトの活用
	3年	家庭分野【全員必修】 A 家族・家庭と子どもの成長 わたしたちの成長と家族・地域 1 わたしたちと家族・家庭と地域 2 幼児の生活と遊び 3 幼児とのふれあい 4 これからのわたしと家族 持続可能な社会をつくる D 身近な消費生活と環境 1 家庭生活と消費 2 商品の選択と購入 3 よりよい消費生活のために 4 環境に配慮した消費生活	技術分野【全員必修】 ■情報に関する技術 ・ デジタルものづくり ・ コンピュータによる制御と技術	【家庭分野】 テーマ学習 ・ゴミの減量化 ・省エネルギー 体験的学習 ・消費者教育講座 【技術分野】 ・P Cによる表計算を利用したグラフ作成の発展的課題 ・ネットワーク接続されたP Cによるデジタル作品製作
高校段階	4年	《家庭基礎》【全員必修】 1 自分・家族―多様化した社会に生きる― 2 子ども―子どもと生きる― 3 高齢者―高齢者と生きる― 4 社会福祉―支えあい共に生きる― 5 食生活―楽しく安全に食べる― 6 衣生活―選んで着る― 7 住生活―人間らしく住む― 8 消費・環境―消費社会を生きる― ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		学校家庭クラブ活動 ・デイケアセンターとの交流 ・こども園との交流 体験学習 ・車椅子体験 ・シニア疑似体験 ホームプロジェクトコンクール 応募

* 5年・6年は家庭科の設定科目なし

教科名 技術・家庭科
科目名 技術・家庭
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 実践的・体験的な学習を通して、家族や家庭と子どもの成長についての理解を深める。
- 2 身近な消費生活に関する知識を習得する。
- 3 コンピュータを利用したものづくりを通して、コンピュータの活用を身に付ける。
- 4 課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度が育つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時 35時間
- 2 1 クラス 2 展開 20人授業で行う。技術・家庭科を隔週で学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「技術・家庭（技術分野）」教育図書 「技術・家庭（家庭分野）」開隆堂
補助教材「技術・家庭ノート（家庭分野）」正進社 「中学用 課題で学ぶ技術分野 情報テキスト」日本教材出版
マグカップデザイン（技術分野） 保育作品キット（家庭分野）

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容				授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容		副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み 宿 題							
	4		＜技術分野＞ 第4章「情報に関する技術」 P202～261 1 ネットワークを支える技術P204～217 1 情報のデジタル化P204 1 デジタル情報を扱う機器 2 デジタル化された情報の姿 3 情報の量の表し方		＜家庭分野＞ A家族・家庭と子どもの成長 わたしたちの成長と周囲の人々 1 わたしたちと家族・家庭と地域 P10～17 2 幼児の生活と遊びP20～41 絵本製作		3	一 ク ラ ス 二 展 開、 技 術 と 家 庭 を 隔 週 で 学 習 す る。
	5				＜技術分野＞ コンピュータ実習 ノートP4～9 ノートP12～20 ノートP26～27 保育作品キット製作		4	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	2 コンピュータの技術P208 1 コンピュータのしくみ（ハードウェア） 2 ソフトウェア（プログラムとデータ）		3 幼児とのふれあいP.42～47 持続可能な社会をつくる		4 2	
夏休み 宿 題		夏季休業課題						
二 学 期	9		＜家庭分野＞ A家族・家庭と子どもの成長 わたしたちの成長と周囲の人々 1 わたしたちと家族・家庭と地域 P10～17 2 幼児の生活と遊びP20～41 絵本製作		＜技術分野＞ 第4章「情報に関する技術」 P202～26 1 ネットワークを支える技術P204～217 1 情報のデジタル化P204 1 デジタル情報を扱う機器 2 デジタル化された情報の姿 3 情報の量の表し方		3	
	1 0				ノートP4～9 ノートP12～20 ノートP26～27 保育作品キット製作		3	
	1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	3 幼児とのふれあいP.42～47 持続可能な社会をつくる		2 コンピュータの技術P208 1 コンピュータのしくみ（ハードウェア） 2 ソフトウェア（プログラムとデータ）		5 2	
冬休み 宿 題		冬季休業課題						
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	＜技術分野＞ 第4章「情報に関する技術」 P202～261 1 ネットワークを支える技術 P204～217 3 簡単なネットワークをつくってみ よう P210 1 コンピュータと情報通信ネットワ ーク 2 インターネットのしくみ 3 通信プロトコル 4 W e b ページのしくみ 5 安全に利用するための使い方（セ キュリティ） 4 情報社会と向き合う（情報モラル） P216		＜家庭分野＞ D身近な消費生活と環境 1 家庭生活と消費 P212～215 2 商品の選択と購入 P216～223 3 よりよい消費生活のために P224～235 4 環境に配慮した消費生活 P236～244		3	
	2				コンピュータ実習 ノートP96 ノートP97～99 ノートP100～103 ノートP105～106, 108～109		3	
	3						3	
							3 5 (1 単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。①定期考査（各学期1回、年間3回）、②提出物（長期従業員中課題、課題プリント、作品等）、③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）							

英語科

I 英語科の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II 英語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	小学校の学習内容を体系的な知識・技能に移行する。 【言語運用スキル】アルファベットの書き方、辞書の使い方、音声と文字のつながり、日常的なあいさつ、シンプルな会話・スピーチの聞き取り、簡単な自己表現、簡単な道案内 【言語材料】be動詞・一般動詞の肯定文/否定文/疑問文、疑問詞を用いた疑問文、命令文、場所を表す前置詞、基本的な動名詞・過去時制(be動詞/一般動詞)、代名詞、三人称単数現在の表現・助動詞(can/need to)、現在進行形、感嘆文、不定詞(want to)、SVC(look)	・CD教材などで聞き取り練習 ・スキットの作成、発表 ・文法・語法の演習および先行的学習 ・日記文やエッセイ文の基本練習 ・Show & Tellなどによる口頭発表活動 ・英検全員受検【4級の取得を目指す】 ・GTEC受験
	2年	基本的な英語運用能力を伸ばす 【言語運用スキル】学習を深める辞書の使い方、英語の文構造、品詞、即興の会話の継続、聞き手を意識したスピーチ・会話、道案内、場面に応じた依頼、電話でのやり取り、手紙の書き方 【言語材料】 未来の表現、五文型、接続詞(because/if/when/that)、助動詞(may/will/must/shall/have to/過去)、不定詞、動名詞、疑問詞+to、比較表現、受け身	・CD教材などで聞き取り練習 ・文法・語法の演習および先行的学習 ・日記文やエッセイ文の基本練習 ・副読本を読む ・英文の暗唱などの口頭発表活動 ・英検全員受検【準2級以上の取得を目指す】 ・GTEC受験
	3年	基本的な英語運用能力を完成し、高校への準備に入る 【言語運用スキル】聞き手を意識した社会的な話題への論理的な意見構築、相手の意見を受けての自己主張、簡易的なディベート、簡易的な要約 【言語材料】現在完了/完了進行形、SVOC、It for to、原形不定詞、間接疑問文、後置修飾、現在/過去分詞、接触節、関係代名詞、仮定法	・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・副読本を読む ・文法・語彙（ごい）・表現力強化、聞き取り練習 ・高校英語への準備 ・英検受検【2級以上の取得を目指す】 ・GTEC受験 ・英文エッセイを完成
高校段階	4年	《コミュニケーション英語Ⅰ》《英語表現Ⅰ》 中学時代に学習した英語能力をさらに高める 【英語で聞いたことを素早く処理する】 【様々なジャンルの英語を正確に読みとる】 【言いたいことが言えるようにする】 【自分の意見を持って書く表現力をつける】	・副読本を読む ・文法の演習・まとめ ・スピーチ・ダイアログを行う ・語彙（ごい）・表現力強化 ・やさしいニュースを聞く ・GTEC受験
	5年	《コミュニケーション英語Ⅱ》《英語表現Ⅱ》《白鷗プレゼンテーション・イン・イングリッシュ》 5年終了時までに関通テストで7割の得点が取れるようにする 【英語コミュニケーション能力をさらに伸ばす】 【論理展開などに注意して文章を理解する】 【習った語法を使い、言いたいことが書ける】 【テーマを決め論理的な説得力のある文を書く】 【発表の仕方を学び、自分の意見を発表する】	・副読本を読む ・文法・語法の演習 ・構文の定着 語彙（ごい）増強 ・速読できる力をつける ・いろいろな英語を聞く ・プレゼンテーションを行う ・GTEC受験
	6年	《コミュニケーション英語Ⅲ》《英語表現Ⅱ》《白鷗プレゼンテーション・イン・イングリッシュ》 大学入試問題（国公立2次・私大）の演習を行う 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに書く】 【かなりの分量を速く読む技術を習得する】 【話し合ったり、討論したりする】	・文法・語法・構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う ・英語論文の完成

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 英語科
科目名 英語
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 基本的な表現・文法事項を学習し、自分の意見や考えを英語で伝える力、相手の意見や考えを英語で聞き取り理解する力を付ける。
- 2 英語の様々な読み物から新しい知識や情報を読み取る力を付ける。
- 3 自己紹介や日本文化の紹介だけでなく、世界の国々の文化や人々の生活について学び、考える力を付ける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時数175時間
- 2 2 クラスを 4 展開して習熟度クラス編成による授業を行う。
- 3 補助教材を活用し、基礎を固めると共に、発展的な学習を行う。
- 3 定期的に単語テストや小テスト（Dictation Test、単元テストなど）を行い、基礎文法事項の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 「New Horizon 3 English Course」東京書籍
補助教材 「5 stage 英文法完成 book3」数研出版 「Accel Reading I」啓林館 「中学必修テキスト 英語③」文理
「A Passage to Paragraph Writing」センゲージラーニング株式会社
「新 ユメタン①」アルク・「マーフィーのケンブリッジ英文法」ケンブリッジ大学出版
「INSPIRE 総合英語」文英堂

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	補助教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	2 年の総復習		1	
	4	1 学期 中 間 考 査	『Unit 0,1,2 /Let’s Write1/ Let’s Listen 1』 ・現在完了（経験・完了・継続）を用いて、これまでの経験や、ずっとすきなこと、これまで取り組んできたことを伝えることができる。	『スペリングコンテスト』教科書で習った単語50個 『Dictationテスト』教科書の本文が終わった次の授業に、Dictationテストを行う。 『Unitテスト』単元終了後の確認	17	20
	5		・SVOC / SVOOの文型を用いて、気持ちを伝える手紙を書いたり、自分の意見を述べたりすることができる。			
	6 7	1 学期 期 末 考 査	『Let’s Listen2/Unit 3/Let’s Write2/Let’s Read』 ・It is+～（for－）+to不定詞や原形不定詞を用いて自分の考えや意見を書くことができる。 ・適切な談話標識を使って、社会的な話題について理由や根拠を含めて意見を書くことができる。	『ユメタン』 『Dictationテスト』 『Unitテスト』	18 6	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	1学期の復習、長文読解問題、英単語	5 stage 英文法完成 book 3	1	
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	『Let’s Listen3 /Unit4 / Let’s Talk2/Let’s Listen4』 ・間接疑問文、現在・過去分詞を用いて防災について説明することができる。 ・適切に助動詞を用いて相手の立場に立って具体的な提案をしながら申し出たり、応じたりする。 ・ニュース音声聞いて、概要や要点を理解することができる。	『ユメタン』 『Dictationテスト』 『Unitテスト』	17 17	
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	『Unit5,6/ Let’s Write3 /Let’s Listen5』 ・接触節、関係代名詞を用いて人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる。 ・日本や郷土の文化を紹介することができる。 ・仮定法を用いて架空の状況について説明したり、感想や意見をのべたりすることができる。	『ユメタン』 『Dictationテスト』 『Unitテスト』 『スペリングコンテスト』	22 14	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	1~2学期の総復習【分詞・関係詞・間接疑問文】	5 stage 英文法完成 book 3	1	
	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	『Let’s Talk3/ Let’s Read 2・3』 ・相手の意見を受けて自分の主張を述べることができる。 ・主張とその理由を明確にしながらディベートをすることができる。 ・社会問題や著名なスピーチを読み、理解し、概要を自分の言葉で伝えなおすことができる。	『ユメタン』 『Dictationテスト』 『Unitテスト』	15 20 6	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間5回）、②宿題テスト（春休み、夏休み、冬休み、年間3回）、③Dictationテスト ④小テスト（単語・単元）、⑤提出物（宿題ノート、課題プリント）、⑥振り返りノート(定期考査の解きなおし・分析・対策)、⑦学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

教科名 英語科
科目名 プレゼンテーション
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

1. 自分の考えや意見を整理し、的確に伝える表現力を養う。
2. 聞き手の立場になって、相手に効果的に伝える力の向上をはかる。
3. 学んだ英語表現を駆使し、英語によるプレゼンテーション能力の向上をはかる。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 年間授業時数35時間
2. クラスルーム単位による一斉授業
3. ALTとのチームティーチングを行い、きめ細かい指導を行う

III 教科書・補助教材

教科書 「New Horizon English Course 3」 東京書籍
補助教材 「Welcome to Tokyo」 Tokyo Metropolitan Board of Education , オリジナル教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4 5		Pair Presentation 他者紹介 Topic 5 Judo	Welcome to Tokyo オリジナル教材	6	
	6 7		Individual Presentation 東京の伝統工芸品	Welcome to Tokyo オリジナル教材	6	
二 学 期	9 1 0		Individual Presentation 伝統工芸品の作成手順 Topic 6 Traditional Theater	Welcome to Tokyo オリジナル教材	8	
	1 1 1 2		Individual Presentation 外国人に日本文化を紹介するI	Welcome to Tokyo オリジナル教材	8	
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1 2 3		Group Presentation 外国人に日本文化を紹介するII	Welcome to Tokyo オリジナル教材	7	
					3 5	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①提出物（宿題ノート、課題プリント） ②学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等） ③発表の評価					

第2外国語科

I フランス語の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II フランス語の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	・初歩的な会話をできるようにする ・フランス語のしくみを理解する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解する	・ALT との学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・演劇 ・文法の演習 ・フランスのゲーム、歌、アニメ
	3年	・日常会話をできるようにする ・フランス語の全体像を把握する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解して考える力をつける	・ALT との学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・翻訳 ・文法や仏検の演習（希望者は仏検受験） ・フランスのゲーム、歌、映画
高校段階	4年	・旅行や留学で使える会話表現を増やす ・読解や仏作文に慣れる ・フランスの文化について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文 ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	5年	・旅行や留学で使える会話表現をさらに増やす ・学習した文法事項を活用して、読解や仏作文ができる ・フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文、日記、手紙、メール ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	6年	・大学入試に対応できる能力を身につける	・大学入試問題の演習など

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 フランス語
対象 3 学年選択

I 學習到達目標

- 1 フランス語の基本的な表現をさらに発展させて学習し、それを使って日常会話をできるようにする。
- 2 フランス語の基本的な文法事項をさらに発展させて学習し、フランス語の全体像を把握する。
- 3 フランスの歴史や現代事情にも触れながら、フランス文化について学習し、他との違いや共通点を理解して考える力をつける。

Ⅱ 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2クラス4展開で選択授業を行う
- 2 教科書や補助教材を活用し、基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 3 定期的にテストや発表を行い、基礎文法事項や簡単な会話表現の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 『発見！ フランス語教室 (A la découverte) 』（中井珠子他著、第三書房、2019年）
補助教材 プリント教材など

IV 學習計畫

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
			「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		なし	なし	
	4		Leçon 9：人や物の場所を言う（位置の表現、直接 目的語の代名詞、voir / entendre の現在形、建物 に関する単語） pp.54-59	・フランスの歴史や現代事情	2
	5		Leçon 10：これまでにしたことを言う（複合過去 形、過去分詞、過去や移動に関する単語） pp.60-65		8
	6	1 学期 期 末 考 査	Leçon 12：起床・就寝時間を言う（代名動詞） pp.72-77	・学期末試験	8
7	補足：つづり字と発音の関係		・翻訳	2	
	夏休み 宿 題				
二 学 期	9		2 学期は主にプリント教材を使用	・フランス映画	1 0
	1 0		仏検演習①：冠詞、指示形容詞・所有形容詞 仏検演習②：主要な動詞の現在形 仏検演習③：非人称構文、様々な否定文、近接未 来・近接過去、形容詞・副詞の位置 仏検演習④：疑問文、否定疑問文、疑問形容詞、 疑問代名詞、疑問副詞	・フランスの学校生活	1 0
	1 0	2 学期 期 末 考 査	仏検演習⑦：会話文 道案内：地図を解読して、道案内をする	・学期末試験	1 0
	1 1		仏検演習⑧：質問文の聞き取り、1～20 のリエゾ ン・アンシェヌマン 補足：つづり字と発音の関係	・フランス文化	1 0
	冬休み 宿 題				
三 学 期	1	3 学期 期 末 考 査	3 学期も主にプリント教材を使用	・学期末試験	6
	2		レストラン：メニューを解読して、注文する 仏検演習⑤：テーマ別の語彙 仏検演習⑥：対になる表現、比較級 仏検演習⑨：日常表現の聞き取り、肯定・否定、 単数・複数、男性・女性の聞き分け 補足：つづり字と発音の関係	・フランスのゲーム、歌	4
				計 7 0 (2 単位)	
評 価	以下の資料を用いて、3 つの観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」から総合的に評価を行う。 ・学期末試験（年に 3 回） ・授業への参加態度 ・発表 ・提出物 ・宿題				

外国語科

I ドイツ語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II ドイツ語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	- ドイツ語の初歩（アルファベット・発音など）を学習し、基本的な挨拶、自己紹介、初歩的な日常会話ができるようにする。 - ドイツの歴史、文化、実情に触れることで、ドイツ、さらにはヨーロッパ、世界への関心を引き起こす。	- ALT による発音練習、聞き取り練習。 - 小テスト、単語ゲームなどで学習した単語の定着。 - 文法、語法の演習。 - 自己紹介などの基本的な文を書けるようにする。 - スピーチ、ドラマの台詞などを暗唱し、発表する。
	3年	- 中学2年生で習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話などが出来るようにする。 - 正しい発音、基本的文法事項を徹底する。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を深める。 - ドイツ語圏の国々やヨーロッパ、ひいては世界への関心を深める。	- ラジオ教材を活用するなどした聞き取り練習。 - 語彙を増やす。 - スキットの作成と発表。 - 文法、語法の演習。 - 日記を書き、少しまとまった文を書けるようにする。 - 暗唱などの口頭発表。 - 副読本を読む。
高校段階	4年	- 中学の2年間で習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話はもとより、応用力も身に付けられるようにしていく。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を深める。 - ドイツ語の基本文法を習得する。	- プレゼンテーションなどの発展的活動。 - 文法、語彙、表現力を強化する活動。 - 副読本を読む。 - 聞き取り能力の強化。 - スピーチ、ダイアログを行う。
	5年	- これまでに習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話はもとより、応用力も身に付けられるようにしていく。自分の意見も表現出来るようにする。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を更に深める。 - ドイツ語で自ら考え表現する能力と態度を身に付ける。 - ドイツ語基本文法の知識を確かなものとしていく。	- プレゼンテーションを行う。 - 文法、語彙、表現力を強化する活動。 - 副読本を読む。 - ニュースなどを使っての聞き取り能力の強化。 - スピーチ、ダイアログを行う。
	6年	- ドイツ語で大学入試（共通テスト・私大入試）を受験できるように実力をつけていく。 - 各大学の過去の入試問題を分析し、対策を練る。 〔長文読解、及びその背景を探る〕 〔色々な内容のテーマについて豊かに表現する〕 〔話し合ったり討論したりする練習〕	- プレゼンテーションなどの発展的活動。 - 文法、構文、表現力を強化する練習。 - 語彙を豊富にする。 - 読解力の向上。 - リスニングテストなどによる聞き取り能力の強化。 - 生徒それぞれの必要や能力に応じた個別指導。

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 ドイツ語
対象 中学３学年選択（初中級）

I 学習到達目標

- | |
|--|
| 1 中学１年間で習得したドイツ語の知識をより確かなものとしていく。 |
| 2 ドイツ語の基本的な表現を学習し、書く力、読む力、話す力をやしなう。 |
| 3 ドイツ語圏の国々の歴史・文化・政治・習慣などについての知識と理解を深める。 |

II 授業の進め方（授業形態等）

- | |
|---|
| 1 ２クラス４展開で選択授業を行う。 |
| 2 ドイツ語での挨拶、自己紹介、基本的表現などを、言ったり書いたり聞き取ったり出来るように繰り返し練習する。 |
| 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基礎文法事項の定着をはかる。 |

III 教科書・補助教材

教科書 「ゲナウ！ノイ コミュニケーションのドイツ語」第三書房 新倉真矢子他

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4	授業内 考查	復習と確認 (動詞の現在人称変化、名詞の性、定冠詞・不定冠詞、代名詞、複数形)	ALTによる発音練習、聞き取り練習。 簡単な会話と日常表現。 基本的文法の習得。	2	
	5		4不定冠詞・否定冠詞の4格		8	
	6	授業内 考查	5所有冠詞と人称代名詞の1格・4格	ALTによる発音練習、聞き取り練習。 簡単な会話と日常表現。 基本的文法の習得。 DVD (アルプスの少女、ハイジ) などによるドイツ語圏文化の紹介。	8	
	7		6 不規則変化動詞の現在形、命令形		2	
	夏休み宿 題		不規則動詞の変化を暗記			
二 学 期	9	授業内 考查	7 話法の助動詞	ALTによる発音練習、聞き取り練習。 簡単な会話と日常表現。 基本的文法の習得。 ドイツ音楽に親しむ。	1 0	
	1 0		8 3 格支配の前置詞①、3 格の人称代名詞		1 0	
	1 0	授業内 考查	9 3・4 格支配の前置詞、3 格支配の前置詞②	ALTによる発音練習、聞き取り練習。 簡単な会話と日常表現。 基本的文法の習得。	1 0	
	1 1		10分離動詞,zu不定詞、再帰代名詞		1 0	
	冬休み宿 題		1・2 学期の復習、短文読解、単語の暗記			
三 学 期	1	授業内 考查	11過去形、現在完了形	ALTによる発音練習、聞き取り練習。 簡単な会話と日常表現。 基本的文法の習得。	6	
	2		12従属の接続詞、比較級・最上級、非人称表現		4	
					計 7 0 (2 単位)	
評 価	以下の点から総合的に評価する。 ・毎学期の授業内考查により、知識・理解度をみる。 ・ドイツ語で自己紹介の文を論理的かつ物語的に作成して発表することにより、思考・判断・表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出などを通して、学習意欲をみる。 ・ドイツの文化に関して自ら調べることを通じて、主体的に学習に取り組む態度を醸成する。					

外国語科

I スペイン語の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II スペイン語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	・スペイン語の初歩を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやりとりができるようにする。 ・スペイン語を話す国々を知る。 ・スペインの地理や風土、文化の特徴を学ぶ。	・身近な単語や数字などの聞き取り練習 ・基礎的な文法、語法の演習 ・自分や人を紹介するなどの基本的な文の作成 ・日常生活での場面ごとの短い会話文のロールプレイング
	3年	・中学二年生で学んだスペイン語をさらに発展させて学習し、身近な事柄についてスペイン語で表現できるようにする。 ・スペインの歴史を学ぶ。 ・ラテンアメリカ諸国の地理や風土、文化の特徴を学ぶ。	・CD教材やラジオ教材、ALTによる聞き取り練習 ・現在形の活用を中心とした文法・語法の演習 ・語彙力の強化 ・身近な事柄についての基本的な文の作成 ・暗唱など口頭発表活動 ・教材内の短いスキットの読解・発音・発表
高校段階	4年	・中学で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。 ・自ら考え、表現する態度と能力を身につける。 ・スペイン語技能検定6級の取得を目指す。	・CD教材やラジオ教材を使用した聞き取り練習 ・文法・語法の演習 ・語彙力の強化 ・副教材の読解・発音練習 ・作文やスピーチ作成など表現力を強化する活動 ・シャドウイングによる発音練習 ・スペイン語技能検定6級の過去問題の演習
	5年	・4年生で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より応用的なスペイン語を習得するとともに、自分の意見を表現できるようにする。 ・スペイン語技能検定5級の取得を目指す。 ・DELE A1の取得を目指す。	・やさしいニュースを聞くなど、聴解力強化 ・文法力の強化 ・語彙力の強化 ・副教材の読解・発音練習 ・作文やスピーチ作成など表現力を強化する活動 ・シャドウイングによる発音練習 ・スペイン語技能検定5級およびDELE A1の過去問題の演習
	6年	大学入試(私大入試)で扱われているスペイン語に対応できるだけの総合的な能力を身につける。 大学入試問題(採用している大学のみ)などの演習を実施する。 【長文読解】 【様々なテーマについて内容豊かに書く】 【スピーチ・プレゼンテーション】など。 ・スペイン語技能検定4級の取得を目指す。 ・DELE A2 の取得を目指す。	・文法、語法、構文の演習 ・語彙力の更なる強化 ・読解力の向上 ・リスニングテスト ・各自、志望校の過去問題を中心とした問題演習 ・スペイン語技能検定4級およびDELE A2の過去問題の演習

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 外国語科
科目名 スペイン語
対象 3 学年選択

I 学習到達目標

- 1 2 学年で学習したスペイン語を更に発展させ、身近な事柄について、読んだり、書いたり、聞いたり、話したりできるようにする。
- 2 スペインの歴史を学ぶ。
- 3 ラテンアメリカ諸国の地理や風土、文化の特徴を学ぶ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2 クラス4 展開で選択授業を行う
- 2 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基礎文法事項の定着をはかる

III 教科書・補助教材

補助教材「スペイン語の入門」白水社
適宜プリント
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み 宿 題		予定なし				
	4	1 学 期 中 間 考 査	・ ser と estar を使った様々な表現を学ぶ。 ・ ser と estar の違いと使い分けを学ぶ。 ・ hay と estar の違いと使い分けを学ぶ。	プリント 単語 視聴覚教材	2		
	5				8		
	6	1 学 期 期 末 考 査	・ 動詞 gustar を学ぶ。 ・ 好みや趣味について話す。 ・ 人称代名詞 - 前置詞格 を学ぶ。 ・ 日常や余暇の過ごし方を話す。	プリント 単語 視聴覚教材 テスト	8		
	7				2		
	夏休み 宿 題		1 学期の復習	単語 レポート			
二 学 期	9	1 学 期 中 間 考 査	・ 「～したい」「～しなければならない」「～できる」「～するつもりだ」などの表現を使って、身近な事柄について表現する。	プリント 単語 視聴覚教材	1 0		
	1 0				1 0		
	1 1 1 2	1 学 期 期 末 考 査	・ 値段と単位の表現を学ぶ。 ・ 不規則活用動詞を使って、買い物をする際の表現を学ぶ。	プリント 単語 視聴覚教材 テスト	1 0 1 0		
	冬休み 宿 題		1、2 学期の復習				
三 学 期	1	3 学 期 期 末 考 査	・ これまでに学んだ表現を含む文章の読み取りに取り組む。	プリント 単語 視聴覚教材 絵本 学年末テスト	6		
	2				4		
						計 7 0 (2 単位)	
評 価	以下の観点を総合して評価する。 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度						

外国語科

I 中国語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II 中国語の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	・中国語の初歩を学習し、日常会話等ができるようにする。 ・中国語の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学ぶ中学一年生で学んだ中国語の初歩をさらに深めた学習し、日常会話等ができるようにする。	・ラジオ教材など聞き取り練習 ・スキットの作成、発表 ・文法、語法の演習 ・日記を書き、基本的な文をかけるようにする。 ・暗唱などの口頭発表活動
	3年	・中学一、二年生で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等ができるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学、その知識をさらに深める。	・ラジオ教材など聞き取り練習 ・スキットの作成、発表 ・文法、語法の演習 ・日記を書き、基本的な文をかけるようにする。 ・暗唱など口頭発表活動 ・副読本を読む
高校段階	4年	・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語ができるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
	5年	・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語ができるようにする。そこから自分の意見を表現できるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	・プレゼンテーションを行う ・やさしいニュースを聞く ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
	6年	大学入試(共通テスト・私大入試)で扱われている外国語科目に対応できるだけの能力をつける。 大学入試問題(採用している大学のみ)などの演習を実施【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに描く】 【話し合ったり、討論したりする】	・文法、語法、構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う

* 高校生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 外国語科
科目名 中国語
対象 3 学年選択

I 学習到達目標

- 1 初級で学んだ基礎を生かし、より使える中国語を学んでいく。
- 2 生徒の学びたい興味ある学習内容を生徒と一緒に考え、語学力を上げていく。
- 3 中国語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2クラス4展開で選択授業を行う。
- 2 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基礎文法事項の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

補助教材 「高校生からの中国語」白帝社、 プリント教材
「しゃべっていいとも中国語」朝日出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		予定なし			
	4	授 業 内 考 査	母音、子音、声調	補助プリント	2	
	5		人称代名詞 動詞（是） 助詞（的） 連動文	・母音、子音表 ・基本的な文構造を学習する。	8	
	6	授 業 内 考 査	助動詞（想） 動詞（有） 指示代名詞	プリント 単語	8	
	7		動詞（在） 前置詞（从）（往） 方位詞	暗唱テスト グラマーテスト ・学んだ文法事項の活用を図る。	2	
	夏休み 宿 題		道案内会話文暗記			
二 学 期	9	授 業 内 考 査	道案内会話文	プリント	1 0	
	1 0		量詞 形容詞述語文 年月日曜日 動詞の重ね型	単語 暗唱テスト グラマーテスト	1 0	
	1 0 1 1	授 業 内 考 査	時刻 文末の（了） 完了を表す助詞（了）	プリント 単語 暗唱テスト グラマーテスト	1 0 1 0	
	冬休み 宿 題		買い物内会話文暗記			
三 学 期	1	授 業 内 考 査	買い物会話文	プリント	6	
	2		前置詞（給） 助動詞（可以）（能）（会） 進行形	単語 暗唱テスト グラマーテスト	4	
					計 7 0 (2単位)	
評 価	以下の観点を総合して評価する。 ・毎学期の定期考查により、知識・理解度をみる。 ・中国語での簡単な発表活動を通し、表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出等を通して、学習意欲をみる。 ・小テストや定期考查などで、中国語や文化についての知識・理解をはかる。					

教科名 総合的な学習の時間
科目名 総合的な学習の時間
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

- 1 2 年次の学びを土台として、主体的に課題を発見し探究することができる
- 2 1 年間の研究成果を適切な形式で文章にまとめることができる
- 3 5 年次の探究論文執筆を見据えて、魅力的な海外旅行プランを考えることができる

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 探究活動と 5 年次修学旅行のプラン作成を並行して進める
- 2 1 年間の学びのまとめとしてポスターセッションとミニ論文執筆をおこなう

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 岡本尚也「課題探究メソッド 2nd Edition よりよい探究活動のために」啓林館、2 0 2 1 年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	なし				
	4	なし	オリエンテーション	・ 5 年次の探究論文執筆に向けての流れを理解する	2	
	5		世界の諸課題 5 年修学旅行の行先候補地調べ	・ 他教科とも連携し、世界の諸課題をふまえて旅行先を考える	3	
	6	なし	RQ と仮説を立てる 伝統文化体験	・ 希望する旅行先と関連づけて RQ と仮説を考える ・ 浅草地域の伝統文化の体験	3	() は まとめ取 りの時数 を含む
	7		仮説検証に必要なこと 企画旅行プランに必要なこと	・ 仮説を証明するために必要なことを考える ・ 旅行プランを考える際の注意点を学ぶ	(5)	
	夏休み 宿 題	なし	白鷗祭に向けた事前学習	・ ポスター制作		
二 学 期	9	なし	旅行プラン作成の注意点	・ 自分たちの仮説を証明するために必要なことを考え、文献調査等を行う	3	旅行プランは白鷗 タイム等で考える
	1 0		仮説検証		1	
	1 1	なし	仮説検証	・ 引き続き仮説検証する	3	
	1 2		旅行プランクラス中間発表	・ 5 年次修学旅行の旅行プランを発表する	(5)	
	冬休み 宿 題	なし				
三 学 期	1	なし	探究論文の書き方	・ 探究論文で必要な項目を学ぶ	3	
	2		ミニ論文を執筆	・ 3 年次の研究成果をまとめる	2	
	3		TGG (Tokyo Global Gateway) ポスターセッション準備 ポスターセッション	・ TGG で海外研修旅行の準備をする。 ・ ポスター制作 ・ 研究の成果を発表する	(5)	
					計 3 5 (1 単位)	
評 価	・ 2 年次の学びを土台として、主体的に課題を発見し探究していこうという姿勢が見られるか ・ 1 年間の研究成果を適切な形式で文章にまとめているか ・ 5 年次の探究論文を意識して積極的に企画旅行を考えているか					

教科名 道德
科目名 道德
対象 3 学年全員

I 学習到達目標

学習指導要領第 1 章総則の第 1 の 2 に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 道德教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら行う。
- 2 生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
- 3 数値などによる評価は行わないものとする。

III 教科書・補助教材

副教材 「中学生の道德 自分をのばす」 廣済堂あかつき
補助教材 「私たちの道德」 文部科学省、「心みつめて」 東京都教育委員会、自作教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書・学習指導要領」の学習内容	補助教材・その他の学習内容		
一 学 期	4		B 主として人との関わりに関すること 「山寺のびわの実」 ：互いの立場や考えを尊重し、謙虚に学び合う	私たちの道德 心みつめて 自作教材	6 ～ 8	
	5		A 主として自分自身に関すること 「リクエスト」 ：自分で考え誠実に実行し、結果に責任をもつ			
	6		D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 「襟裳のこと」 ：自然の崇高さを知り、自然の愛護に努める	私たちの道德 心みつめて 自作教材	6 ～ 8	
	7		C 主として集団や社会との関わりに関すること 「監督がくれたメダル」 ：学校を愛し、協力して集団生活を充実させる 「卒業文集最後の二行」 ：正義と公正さを重んじ、公平な社会をつくる			
二 学 期	9		C 主として集団や社会との関わりに関すること 「元さんと二通の手紙」 ：法やきまりを守り、規律ある社会をつくる	私たちの道德 心みつめて 自作教材	6 ～ 8	
	1 0					
	1 0		D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 「ひまわり」 ：人間として生きる喜びについて考えを深める	道德地区公開講座 「よりよく生きる喜び」 私たちの道德 心みつめて 自作教材	6 ～ 8	
	1 1		研修旅行でのプレゼンテーション作成 ：集団生活の充実、我が国の伝統と文化の尊重 「自己を見つめる」 （上級学校訪問の振り返り・私たちの道德p5） ：自己の向上を図り、個性を伸ばす			
三 学 期	1 2					
	1		A 主として自分自身に関すること 振り返り（中学三年生）（中学生生活全般） 来年に向けて（高校生として）（どんな大人になりたいか）	私たちの道德 心みつめて 自作教材	6 ～ 8	
	2					
	3					
					3 5	
評 価			生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。 「ワークシートの記入」をさせることにより、授業における理解度をはかる。 「プレゼンテーション」を行うことにより、それぞれの課題における理解度をはかる。 ※ただし、数値などによる評価は行わないものとする。（学習指導要領による）			